「日々の理科」（第 3106 号）　2023,-2,-6

「ヒヤシンスの子球（１）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所 研究員

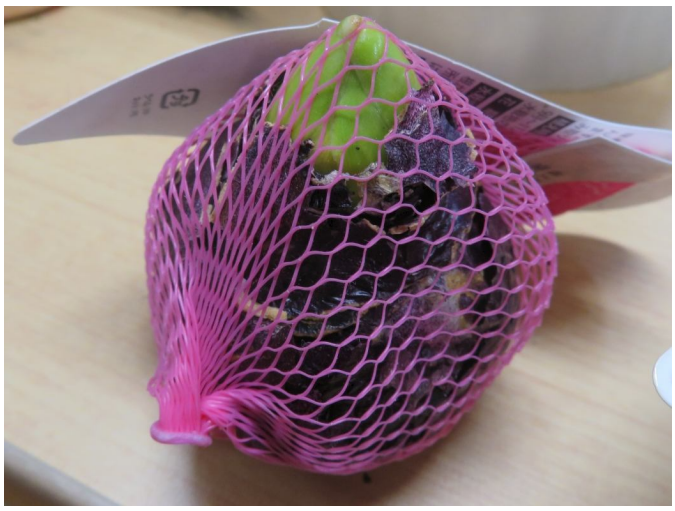
田中　千尋　Chihiro Tanaka

ヒヤシンスは水栽培で育てるのが普通だ。一般的に販売されている球根植物の中では最も大きく、栄養分も豊富なので、水栽培でも確実に花を咲かせるからだ。

水栽培をすると、土で栽培するよりも成長がずっと速く、１１月頃始めると、早いものは１月に開花することもある。また、水栽培の場合、根の成長の様子も観察しやすいというメリットもある。写真は、開花直前の水栽培での根の様子である。

しかし今年度の１年生では、土に植えて栽培を始めた。成長は非常に遅いし、土の中の根の様子は掘ってみるまでわからない。わざわざ土栽培を始めた理由は二つある。一つは、アサガオの栽培が終わった鉢と土の有効利用。もう一つは、球根が養分を温存し、更に「子球（子球根）」も形成するからである。

球根は５色 120 個購入し、子どもたちに植えさせた。いくつか余ったので、花壇に植えようと思っていたのだが、時期を失して、そのまま保管してあった。



数日前にその保管していた球根を見て驚いた。いくつもの球根が、ネットの中で緑色の芽を出していたのだ。もちろん、購入時点ではこのような様子は全くなく、球根の上部は表皮で閉じていた。

更に驚いたのは、球根の基部（根の部分）からも、緑色の芽が発生していたことだ。それもいくつもの球根で、同じような現象が見られたのだ。